

お茶の花。清楚な佇まいが禅の教えに通じるようです。

清元院だより

第2号

清元院には、垣根をはじめたくさんのお茶の木があります。植えられてから一〇〇年近くになるようです。

茶は禅宗のお寺で栽培され、お茶を飲む習慣が広まったといわれています。一〇〇十二月に白い清楚な花を咲かせます。曹洞宗の簡素で朴訥とした宗風を表しているようです。

ようやく清元院だより第2号を発行しましたが、これからも「生きることを楽しむお寺」「人が集まるお寺」になるよう精進いたします。お気軽に相談、おしゃべりにお立ち寄りください。

大梁山清元院 住職 井上英之 九拝

● 誌上法話

● 以西『仏さまめぐり』

● 年末年始の作法

● コラム『相承』

● おてらニュース

・大施食法要
・県檀信徒研修 など

発行者…曹洞宗大梁山清元院

住職 井上英之

佛歴2558年 平成27年12月24日

表紙:清元院に咲く花②
「チャノキ(茶ノ木の花)」
開花場所:駐車場垣根など



山主
九拜

以西「仏さまめぐり」①



【金屋】『あんださん』

金屋公民館に通称「あんださん」と呼ばれる阿弥陀如来さまが安置されています。部落で花当番が決められいつも花が絶えることがあります。

その昔、金屋で子どもの不幸が続いて、「何とか子どもを守らねば！」という思いで、赤碕の福留からこの阿弥陀様を勧請（お招き）したと伝えられています。

以前は阿弥陀様が部落を巡り一か月交代で各家にまつておられたようで、その家は縁日になると小豆ご飯をを炊き、団子のように丸めて、お参りに来られた方にお接待されたそうです。お菓子の詰め合わせ袋の時代もあったとか…。子ども達もそれを楽しみにしていたそうです。

仏像の底に、こう記されています。

「明治二十四年旧二月、金屋の大仏師の又六が新しく色を塗った」と。金屋に仏像を彫る仏師がおられたようです。

どうぞ阿弥陀様、金屋のみなさんを末永くお見守りください。



年末・年始の作法



12 月末	◆ 位牌堂の掃除とお供え の寺参り ※位牌堂の各家の場所の大掃除をして、お餅を供えて正月の準備をしましょう。
12 月 31 日 午後 10:30～	◆ 除夜の鐘つき 寺参り（108 回撞きます） お参りをお待ちしています！ ※にぎやかに皆さんのお参りがあります。1 人何回ついても OK です。 ※おいでになった皆さんに 年越しそば を用意しております。
1 月 1 日 午前 0:00～	◆ 三朝祈願のご祈祷 （正月三が日の朝、毎朝ご祈祷するので三朝祈願という。） ※除夜の鐘からそのまま本堂に移動してお勤めします。 ※正月札（ふだ）をお供えし盛大な太鼓で全檀家の無病息災と所願成就を祈り、大般若経で参拝者全員の肩をたたきご祈祷します。 お参りをお待ちしています！
午前 1:00～	◆ お屠蘇とごちそうで新年を祝います （お酒もあります。）
1 月 2 日 午前 6:00～	◆ 三朝祈願 （2 日目） ※法事の申込もこの日から受け付けいたします。
午前 7:00～	◆ 正月札をお寺に持参 し玄関で年頭のあいさつをします。 ※ 正月札 （しょうがつれい）とは、三朝祈願で正月三が日 ご祈祷したお札を各家庭にお配りするお札 として志を包んでお寺に持っていきます。 ◆ 位牌堂にお参り して、ご先祖に年頭のあいさつをします。 ※1 月 5 日までに年頭のあいさつに来ていただけるとありがたいです。
1 月 3 日 午前 6:00～	◆ 三朝祈願 （3 日目） ※祈祷の終わったお札を、朝のうちに部落役員さんにお届けします。

【お知らせ】

平成二十八年 行事予定

- ▼ 二月十五日…涅槃会（お釈迦様の命日）
- ▼ 三月十三日…大般若法要（三月第二日曜）
- ▼ 四月 八日…降誕会（お釈迦様の誕生日）
- ▼ 四月十六・十七日…先代住職三回忌法要
- ▼ 四月二十一日…以西お大師講（予定）
- ▼ 六月二十八・三十日
…本山研修（福井県永平寺）
- ▼ 八月 六日…大施食会
- ▼ 八月十四日…初盆合同法要
- ▼ 八月十五日…戦没者慰霊祭（予定）
- ▼ 十二月八日…成道会

（お釈迦様が悟られた日）

正月札が新しくなりました

今年から「正月札」を新しくしました。お札に『釈迦牟尼佛本願宝牘』と書いてあります。清元院の本尊『お釈迦様の力で、家門繁栄・所願成就・息災延命・開運招福・諸病悉除・家内安全を願うお札です。』

まつる場所は、居間の鴨居より高いところが一番良いです。家族の幸せを願うお札なので、家族が一番集まるところに置くのです。（無理なら大黒柱に張っても、仏壇でもよいです。）毎年配るお札の効力は一年です。古いお札はとんどさんで焚いてください。

（新）



（旧）



おてらニュース



本堂に飾った施食棚

8月6日(木)。恒例の大施食法要を行いました。旧赤碕町内5か寺から7名の方丈様をお招きして初盆供養・全檀信徒の先祖供養など盛大にお勤めしました。今年から全檀信徒家庭にご案内したところ、本堂一杯の100名近くのお参りがありませんでした。おいでになった皆さんには、塔婆、うちわ、お弁当をお持ちかえり頂きました。来年も8月6日に行います。更に多くのみなさんのおいでいただくことを楽しみにしております。



御寄附いただいた焼香台と賽銭箱



初盆の皆様のご寄付で、ご本尊のお釈迦様にお参りするための焼香台をご寄付いただきました。焼香台・盤子(けいすいかね)・大線香立て・賽銭箱がそろい、本堂に線香を立てる事ができるようになりました。皆様、本当にありがとうございました。

●H27年度檀信徒地方研修会に、清元院から県内最多の18名参加！



10月14日(水)に鳥取市文化センターで「檀信徒地方研修会」が開催されました。県内各地から約500名の曹洞宗檀信徒のみなさんが集まりました。講師は曹洞宗の尼僧(女性の方丈さま)の第一人者「青山俊董老師」(愛知専門尼僧堂堂長)様でした。清元院のお檀家のみなさんに声を掛けるところ県内最多の18名の参加があり、中型バスを借りて出かけました。途中、鳥取賀露港で昼食、買い物をしてから会場に入りました。大変良いお話で「参加してよかった」「また来年も行きたい」という声しきりでした。

●参加者の声【高力昭子さん】
十月十四日鳥取文化センターにて、青山俊董老師様の「今、ここをどう生きるか」人生を円相で考える」の講演を拝聴できたことを本当に幸せに思いました。

時の流れと共にたくさんの人にいただいた生に感謝し、これまで歩んだ自分の人生を振り返る機会をいただいたように思います。また、いろいろな取り乱して物の見方も歪んでしまっている生活の中にも、禅を活かして自然な心に蘇らせる努力の大切さを学びました。

後期高齢者となった現在、日々せかせかと動き回る生活を反省しています。「人間丸くならなければ迎えが来ない」という言葉を頭に入れていっているつもりですが、時々薄れてしまうこともあります。

これからの人生「苦しみや悲しみからは逃れられないのだから、包み込んで生きよう」という青山老師の言葉に励まされ、元気で人の世話ができるように、日々大切に過ごしたいと思っています。

コラム「目録」

人と人が相見え継承していく「相承」について
独り言をいうコラムです。

昨年3月に遷化した先代の父が、お客様が帰られる時、よく私に「山門の下まで門送(もんそう)しなさい」と言っていた。私は「玄関までで充分丁寧。わざわざ下まで送らなくても」とと渋々門送していたものだ。

門送は辞典に「長老の和尚様を山門の外まで見送る禅宗の儀礼」と記されている。

住職になり、あるお家にお経をあげに行くと、いつも帰るときわざわざ外に出て、私の車が見えなくなるまで手を合わせて門送してください。

私はまだ長老ではないが、自分が大切にされていることに、こちらこそ手を合わせたい気持ちになる。

門送の形と共に、その心も次の世代に伝えていかねばなるまい。



【住職のひとり言】 第2号をようやく発行しました(笑) 今回は発行が遅くなってしまいました。反省です。1号を読まれた方々から「盆礼なんて知らなかったわ〜！よーわかったで〜♥」やら「最初から張り切ると長続きせんぞ〜ぼちぼちにしないとよ。」など温かい言葉をたくさんいただきました。反応って、これが結構うれしいもんですね。追伸。除夜の鐘と正月のお参りが増えるといいな〜 (o^)/